

さくら学級 国語科学習指導案

平成29年10月4日(水) 1校時
授業者 中村 千治

1. 単元名

読んで考えたことを話そう（「ごんぎつね」 光村 下 4年生）	ことばの学習 ～きく・はなす・よむ・かく～
-----------------------------------	--------------------------

2. 重点指導事項

物語を読んで感じたこと、考えたことを自分の言葉で話す。	読んだり発話したりする言葉の数を増やし、言葉を組み合わせて言語表現する。
-----------------------------	--------------------------------------

3. 言語活動

本を読んで、好きな場面・登場人物について話す。（読書日記をつけよう）	物語の文章と挿絵を組み合わせ直し、お話を楽しむ。（物語のあらすじをつかむ。）
------------------------------------	--

4. 指導目標

<ul style="list-style-type: none"> ○ 絵本や物語に興味をもち楽しみながら読むことができる。（関心・意欲・態度） ○ 物語のあらすじや登場人物の行動や気持ちの変化を理解することができる。（読むこと） ○ 教科書やプリントを見ながら正しく文字を書いたり読んだりすることができる。（知識・理解・技能） 	<p>特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第2章各教科 第1節小学部 第2款 第1 各教科の目標及び内容 2内容 3段階</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 身近な人の話を聞いて、内容のあらましが分かる。 (2) 見聞きしたこと等のあらましや自分の気持ち等を教師や友達と話す。 (3) 簡単な語句や短い文章等を正しく読む。 (4) 簡単な語句や短い文を平仮名等で書く。
--	---

5. 国語科授業・単元について

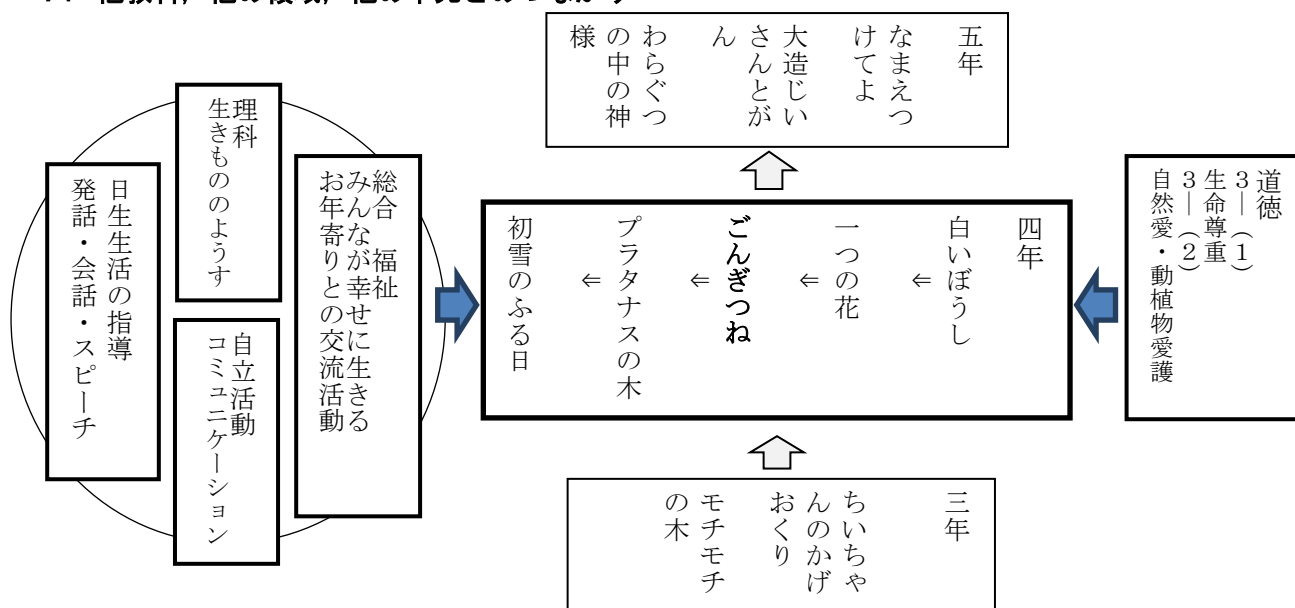
	A	B
実態		

教材観	<p>4年「ごんぎつね」は、主人公「ごん」のいたずらをきっかけに物語が進むので、「ごん」のしたこと、「兵十」への想いを押さえながら読むことで、気持ちの変化を捉えることができる。</p> <p>場面1～5までは「ごん」から見て、場面6は「兵十」から見た書き方に変化している。場面の重要さと2人の想いを十分に想像し物語の世界を味わうことができると思われる。</p> <p>物語を読むときは、登場人物の誰かと自分を重ね合わせたり書いてあることを経験と結びつけたりして想像していくことを確かめることができる。</p> <p>場面の様子が目に浮かぶようだと思う表現に着目したり自然や季節を表現する言葉を味わったりすることができる。</p>	<p>【読む・書く】 文字カードの読み取り、並べ替え、ひらがなのなぞり書き等を行い、文字に親しませることで、正しい発音と理解の定着を狙う。実線や波線等の運筆練習や塗り絵を行い、適切な筆圧と正しい書字動作ができる。</p> <p>【聞く・話す】 読み聞かせでは、人形劇や具体物の提示、動作化等をして理解を助け、登場するものや場面に興味をもち物語の内容やあらすじを楽しむことができる。</p> <p>絵カード学習では、認知や理解を確認したり語彙を増やしたりして言語力理解を確実に豊かなものにしていくことができる。また、複数のカードを指示して取らせたりいくつか見せたカードの中から1枚隠したものを当てたりするゲームを通して、短期記憶を鍛え、ワーキングメモリを強化していくことができる。</p>
指導観	<p>様々な場面のある長い物語を読む際には、何度も繰り返し音読練習をし、挿絵を活用した視覚的掲示物の工夫を図り、物語の流れや登場人物の行動や気持ちの変化が分かるようにする。</p> <p>場面毎に登場人物の気持ちを考えたり、役割演技をしたりする中で、物語の流れを理解し視写や学習プリントを取り入れて読み書きの能力を高めていく。</p> <p>見通しをもって学習することができるように、音読や読み取り、視写等の学習活動を行い、スモールステップの課題解決学習や1人調べに取り組めるようにガイド学習を行う。</p> <p>また、一人学習をスムーズに行うためと学びの定着のために、特別教育支援員による学習支援・見守りを行う。</p>	<p>「聞く、読む、話す、書く」学習を、1つ10～15分間程度の活動として組み合わせ取り組ませる。課題内容や取り組み時間を配慮して集中し学習活動が継続できるようにしていく。時間の把握、見通しをもつことができるよう、タイムタイマーを用い、視覚的に残り時間をとらえさせることで落ち着いて学習に臨める。聴覚優位型のため、誤認識や誤学習、混乱をさせないように気をつける。</p> <p>正しい言葉と認知・理解ができるよう、提示する課題の数、文字や絵の大きさ、内容、言葉かけに配慮して指導に当たる。多くの言葉を正しく獲得させ、語彙や言葉による意思表示を豊かにすることで、自信をもたせるとともにより生活しやすく、生活の質を上げていきたい。</p>

6. 評価について

A	B
<p>登場人物の行動や気持ちを理解し、場面に合わせて声の大きさや話し方に気をつけて読むことができる。</p> <p>4年生程度の漢字を読み、教科書教材文を読む。</p> <p>文字表記に気をつけて、正しく文章を書くことができる。</p>	<p>言葉（語句）に注目して、正しく平仮名を読むことができる。</p> <p>丁寧になぞり書きができ、見ないで書ける平仮名を増やす。</p> <p>絵本に親しみ、身体を動かしたり人形を動かしたりして物語の様子を楽しみながら、登場人物や話の筋について話すことができる。</p>

7. 他教科, 他の領域, 他の単元とのつながり



8. 指導内容・指導計画

A

	ねらい	主な学習活動	指導上の留意点	
第一次必要感を持つ	1	<ul style="list-style-type: none"> 読書への関心を高め, 学習意欲をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語に出会い, 挿絵を見ながら登場人物や情景に親しみをもつ。 初発の感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書週間や読書集会について知らせ, 読書への関心を高める。 読書記録(読書日記)をつける取り組みに意欲をもたせる。 教材文の範読を聴き, 物語の流れをつかませる。 <p>【関】進んで本を読もうとしている。(活動)</p>
第二次言葉の力を高める	2	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ。 新出漢字, 難しい言葉の意味を理解する。 音読をして理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習計画を立て, 漢字や言葉の学習をする。 句読点に気をつけて, 丁寧に教材文を音読練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体の学習の流れ(学習計画)を説明しておく。 漢字や言葉の読み方を確認させる。 <p>【言】これまでに学習した漢字を習得している。新出漢字を読める。(漢字ノート, ワークシート, カード)</p> <p>【言】言葉の意味が理解出来ている。(国語辞典の活用, ワークシート, 資料)</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> 物語の筋, 時代背景を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6つの場面毎の挿絵・内容を大まかにとらえる。 物語の設定, あらすじをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の文章と挿絵を組み合わせ, 順序通りに並べ直す。6つの場面の見出しを考え, あらすじをつかむ。 <p>【読】場面設定を読み取る。(ノート, ワークシート)</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 1の場面の登場人物について書かれた文章を読み, 人柄を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ごん」はどんなきつねか考える。 「ごん」が「兵十」にしたこと, 「ごん」の気持ちを読み取る。(表にまとめる。) 	<ul style="list-style-type: none"> 物語を読むときは, 会話文や地の文に着目して, 登場人物の人柄をとらえながら読む。 <p>【読】登場人物の人柄や置かれた状況を読み取る。(ノート, ワークシート)</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> 2の場面の登場人物について書かれた文章を読み, 人柄を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ごん」はどんなきつねか考える。 「兵十」はどんな人物か考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語を読むときは, 会話文や地の文に着目して, 登場人物の人柄をとらえながら読む。 <p>【読】登場人物の人柄や置かれた状況を読み取る。(ノート, ワークシート)</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> 3の場面を読 	<ul style="list-style-type: none"> 「ごん」が「兵十」に 	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物の行動をとらえ, 気持ちの変

本時		み「ごん」の行動について動機や想いを理解する。	したこと、「ごん」の気持ちを読み取る。(表にまとめる。)	化を読み深める。 【読】登場人物の心情変化を読み取る。(ノート, 口頭)
	7	・ 4 と 5 の場面を読み, 「ごん」の心情を理解する。	・ 「兵十」と「加助」の話聞いた後もつぐないを続けた「ごん」の気持ちを考える。	・ 自分の経験と比べて読むと, 場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読み深める。 【読】登場人物の気持ちを想像する。(ノート, 口頭)
	8	・ 6 の場面を読んで, 死んでしまう「ごん」と「兵十」の「ごん」への心情を理解する。	・ 「6」の場面について考える。物語の最後, 「ごん」, 「兵十」の気持ちや言葉を想像する。物語の続きを想像する。	・ 火縄銃をばたりと取り落としたのはなぜか, 「兵十」の「ごん」に対する気持ちの変化を考えさせる。 【読】読んで感じたことや考えたことを感想文に書く。(感想文)
第三次充実感をもつ	9	・ 教科書で紹介された本や動物が出てくる物語を読み, 読書を楽しむ。	・ 新美南吉の絵本を読む。 ・ 「きつね」が出てくる物語を探して読む。	・ 同作者の他作品を読んで感じたことや考えたことを伝え合うと, 物語の読みが深まったり広がったりすることに気付かせる。 【関】進んで物語を読もうとしている。(活動)

B

	ねらい	主な学習活動	指導上の留意点
	コミュニケーション — 言語の形成と活用に関すること		
	(1) 言葉の数を増やす	① ものの名前を知り, 表現する。 ② 動作の言葉を知り, 表現する。 ③ ものの大きさや形, 色等を表す言葉を知り, 表現する。	・ 具体物や絵カードを見せて物の名前を聞き, 児童に物の名前を表現させる。 ・ 絵カードの中から, 教師が指示したものを児童に取らせる。 ・ 動作と言葉を結び付けさせる。 ・ 状態, 性質を表す言葉は, 体験を通じて教師が言葉で伝えて覚えさせる。 ・ 異なる具体物を用意して, その違いを言葉で表現させる。
	(2) 言葉を組み合わせさせて表現する	① 物と動作の言葉を組み合わせさせて表現する。 ② 物とその物の大きさや形, 色等を表す言葉を組み合わせさせて表現する。 ③ 所有や修飾語を加えて物を表す言葉を表現する。	・ 正しい文章を模倣させる。 ・ 言葉の組み合わせ方を増やしていく。 ・ 具体物や絵カードを使って, 大小や形, 色等を使って表現させる。 ・ 状態を表す言葉で表現させるようにする。 ・ 日常生活場面でも声をかけながら表現を増やしていくようにする。 ・ 自分の物から友だちや教師の物へと広げていく。
	(3) 文章で表現する	① 児童が経験した出来事や感想を文章で表	・ 現在のことから尋ねる。 ・ 単語で答える場合等, 答え方を示し,

		<p>現する。</p> <p>② 簡単な文章で言われたことを理解する。</p> <p>③ 絵や写真を見ながら文章で表現する。</p> <p>④ 尋ねられたことに対して正確に答える。 〔話す〕</p>	<p>徐々に文章で答えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章で答えやすいように質問を工夫する。 言われたことを動作で表現させる。 言われたことを人形やぬいぐるみ等を使って表現させる。 「誰が」「いつ」「何を」等の要素や、否定形や受け身等を合わせる等、なるべく文章で表現するように質問を工夫する。 少しずつ長い文章で答えられるようにしていく。
		コミュニケーション — 状況に応じたコミュニケーションに関すること	
	<p>(1) 相手の立場や気持ち等に応じて、それにふさわしい行動や言葉遣いをする。</p>	<p>① 場に応じたあいさつや敬語を使う。</p> <p>② 状況に合った応答の仕方を身につける。</p> <p>③ 自分が受け止めた内容に誤りがないか聞き直して確認する。</p> <p>④ 相手の話をよく聞いて、やりとり（受け答え）する。</p> <p>⑤ 相手の気持ちを受け止める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 会話やあいさつ等の状況設定をして練習をくり返す。 日常生活でよく使われる応答の仕方を、状況設定をして繰り返し練習する。 教師との日常会話の中で、話をじっくり聞くような機会を積み重ねさせる。 丁寧な言い方、優しい言い方ができたら賞賛し、意識できるようにする。
		視覚機能訓練	
	<p>視覚機能の使い方を身につける。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 準備体操 注視・眼／首のストレッチ・ボール遊び（的当て） （追従性眼球運動）追視／ワークシート：なぞり書き、運筆練習 （跳躍性眼球運動）目の運動 （両目のチームワーク）両眼視・凝視 （眼と体の協応）ポーズ・動作模倣 （視空間認知）パズル、合成・分解 リラックスタイム 	<ul style="list-style-type: none"> 複数を組み合わせて、プランを立てる。 毎日5～15分間、週に1回60分間～2回30分間ずつ等、少しずつ楽しみながら取り組ませる。 1ヶ月ごとに見直してプランを組み立てる。 よいイメージで終わり、疲れのチェックをする。 書字・描画動作がなめらかにできるように、運筆練習や名前のなぞり書きをさせる。
		読み聞かせ	
	<p>教師と一緒に絵本を楽しむ。（読み聞かせ、ブックトーク）</p>	<p>筋のある絵本を見たり、読んでもらったりして楽しむ。〔聞く〕</p> <p>挿絵や具体物、ペープサートを手がかりに、話の内容や物語の筋をつかむ。</p> <p>読み聞かせを聞きながら言葉や文章を声に出してまねる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本や挿絵等に注目させながら、話や読み聞かせをする。 挿絵等から、登場する物を見つけたり様子を言葉にしたりさせる。 言葉の意味を、具体物や動作等で確かめさせる。 教師の読んだ文章を反復したり、言葉に続けて話したりさせ文章表現に慣れさせる。

	読むこと 書くこと		
	言葉（語句）に注目して、正しく平仮名を読む 見ないで書ける平仮名を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 字を読むことに興味をもって、ひらがなを読む。〔読む〕 字を書くことに興味をもって、線や文字の上をなぞって書く。〔書く〕 	<ul style="list-style-type: none"> 大小様々な平仮名カードを用いて、一文字ずつ提示し、一文字ずつ正確に発音させる。 縦書きや横書き表記で言葉を提示したり、文字カードを並べさせたりして文字や言葉を読ませる。 書字、描画動作がなめらかにできるように、運筆練習やなぞり書きをさせる。 なぞり書きや写し書き、見ないで書く等の書字練習をさせる。

9. 本時の指導

(1) 本時の目標

登場人物の行動や気持ちの変化を読み取り、自分の言葉で感想を話す。	楽しみながら、言葉の学習に取り組む。
----------------------------------	--------------------

(2) 展開

教師の支援	学習活動	教師の関わり		学習活動	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲や期待感を持たせる。 本時の学習の流れを確認する。 	1. あいさつ 2. 今日の学習内容を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 予定表で、学習内容を確認する。 	直接指導	直接指導	1. あいさつ 2. 今日の学習内容を知る。 <ul style="list-style-type: none"> 予定表で、学習内容を確認する。 選択／順番決めをして、学習内容を決める。 眼のたいそうをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習に意欲や期待感をもたせる。 体調等に応じて眼のたいそうを行う。
<ul style="list-style-type: none"> 新しい漢字やこれまでに学習した漢字を習得できるように、文や熟語漢字カードで読んだり、書き間違いがないように確かめたりさせる。 漢字の書き取りは、ゆったり大きいマスに丁寧に書かせる。 	3. 漢字の学習をする。 <ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じり文を読む。 漢字の書き取り小テストを行い、答え合わせをする。間違えた漢字を書き直す。 漢字カードを読む。 	間接	一人学習	3. 運筆練習／書画動作練習 <ul style="list-style-type: none"> 名前や語句のなぞり書き、写し書き等の運筆練習をする。 中抜き文字や絵を塗る。 	<ul style="list-style-type: none"> 運筆練習に取り組み、スムーズな書画動作ができるようにさせる。 縦書き、横書きの名前を書く。なぞり書きや写し書きの練習に取り組みさせる。
<ul style="list-style-type: none"> 教科書教材文を漢字や語句、句読点に気をつけて読ませる。 登場人物の気持ちや情景が分かるような読み方のめあてをもたせる。 	4. 句読点に気をつけて、丁寧に音読する。 <ul style="list-style-type: none"> 二、三の場面を音読する。 			4. 文字カード <ul style="list-style-type: none"> 平仮名カードを読む。 言葉カードを読む。 2～6文字の言葉を文字カードで作る。 教師が指示した文字カードを取 	<ul style="list-style-type: none"> 文字カードを1枚ずつ見せて、答えさせる。 文字カードの中から、教師の指示したものを取らせる。提示するカードの数を増減して、混乱なく正確に文字を読むようにする。

				る。	○ 縦・横に姓名を間違いなく並べる。見本を見ながら確認させる。
○ 登場人物の言動や様子から,どんな気持ちなのかを考えさせる。 ○ 登場人物の行動や気持ちの変化やそのきっかけに気付かせる。	5. 物語を場面毎にくわしく読む。 ・ 「ごん」は,「兵十」にどんなことをしたのだろうか。そのときの「ごん」はどんな気持ちだったのだろうか。			5. 言葉の学習をする。(認知・短期記憶) ・ 絵カードを見て,ものの名前を答える。 ・ 絵カードの中から,教師の指示したものを取る。 ・ 教師が隠したカードを当てる。	○ 絵カードを見せながら教師が児童に物の名前を聞き,児童に物の名前を表現させる。 ○ 答えられない,間違った時は教師が言った物の名前を児童に復唱させる。 ○ カード取りの時に,1度に提示するカードを16~25枚に増減したり指示する物の数を1~3個に増やしたりして難易度を調節する。集中して聞く,1度だけ聞く,最後まで聞く等にも気をつけさせる。
○ 登場人物の気持ちを想像しながら読むようにさせる。	6. 三の場面を登場人物の気持ちを説明したり,動作を付けたりしながら読む。			6. 読み聞かせ ・ 教師と一緒に本／教科書を見る。 ・ 教師の言葉を真似たり,続けて文を発話したりする。 ・ 絵本等を見たり聞いたりして,その内容を楽しむ。 ・ 挿絵を手がかりに物語の展開をつかむ。 ・ アニメーションゲームをしながら読む。	○ 教師と一緒に見る,教師に読んでもらう等して,筋のある簡単な話を段階的に楽しむことができるようにする。 ○ 教師が動作をしながら言葉を伝えたり,具体物や絵を示して言葉で伝えたりして,言葉を結び付けさせる。 ○ 挿絵や写真・具体物等を示しながら,話の様子をとらえさせる。
○ 楽しかったことやがんばったことを自分の言葉でふり返り発表する。	7. あいさつ ・ 本時の学習をふりかえる。			7. あいさつ ・ 本時の学習をふりかえる。	○ どの学習が楽しかったか,がんばったかという視点でふり返ることが出来るようにする。

(3) 評価

登場人物の行動や気持ちの変化を読み取り,自分の言葉で感想を話すことができたか。	学習活動に集中して,楽しみながら言葉の学習に取り組むことができたか。
---	------------------------------------